

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

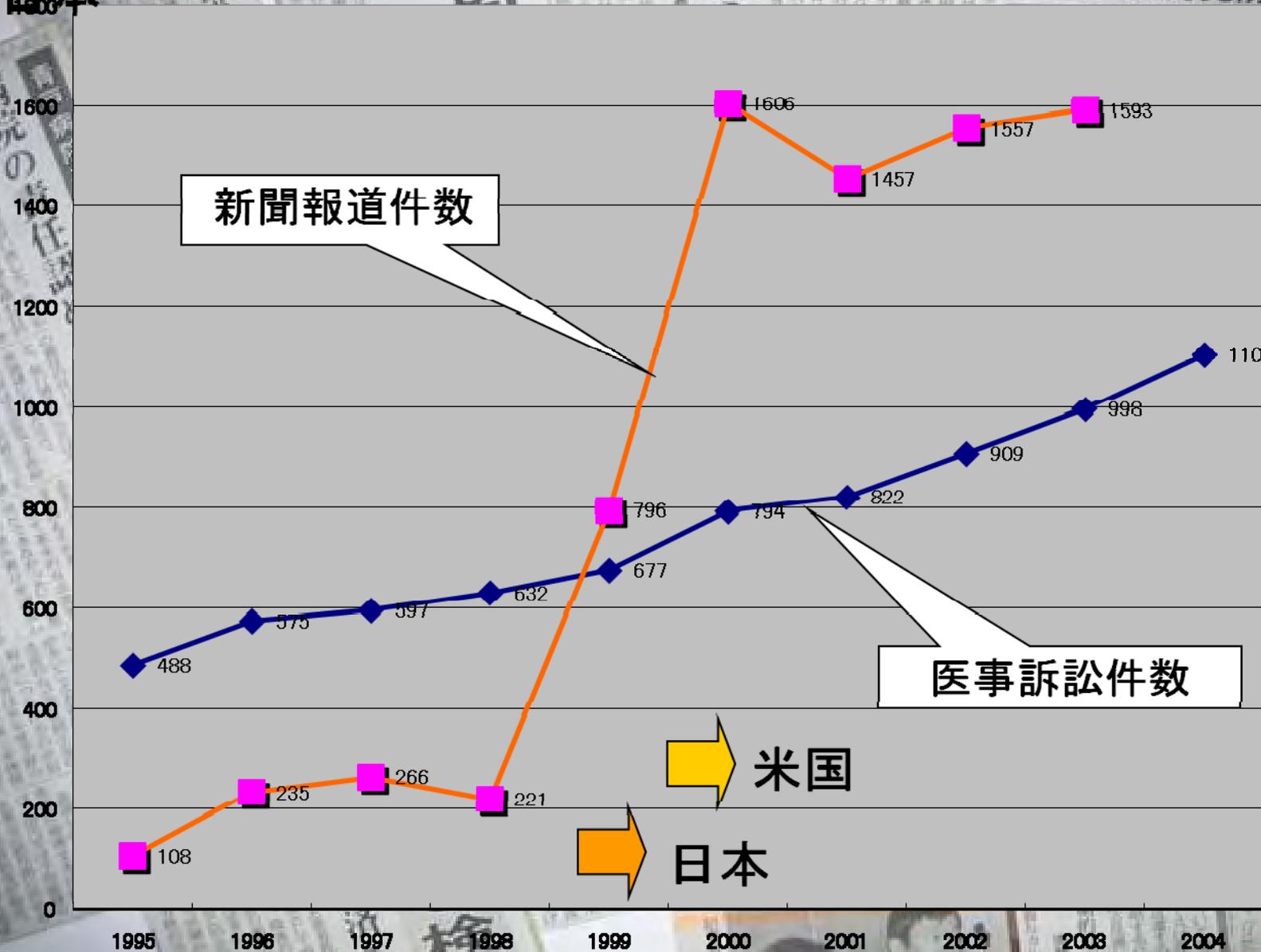
医療安全全国共同行動

“いのちをまもるパートナーズ”

<http://kyodokodo.jp/>

(提供:厚労省医療安全推進室)

日本



新聞報道件数

医事訴訟件数

米国

日本

病院の強制調査も

医療安全全国共同行動

(1)メディカル朝日の調べによる、(2)司法統計による

“To err is human” 1999年11月公表

(医療の質に関する全米プロジェクト委員会／米国医学研究所)

- 入院中に医療行為による傷害を受けた人
2.9%～3.7%
- それが何らかのエラーに起因していたもの
上記の58%、53%

→ 年間あたり約 **44,000人** から **98,000人**

の患者さんが「防げる可能性のある<医療に伴う傷害>」
を原因として死亡している



“Medical Harm”

(医療に伴う傷害／有害事象)

防止可能なものか、過失によるものか、入院後に生じたものか否かにかかわらず、医療の結果として、あるいは医療が関与して(必要な医療が行われなかった場合を含む)生じる、**意図しない身体的損傷**で、そのために観察、治療あるいは入院が必要となるもの、あるいは死に至るもの

(by Institute of Healthcare Improvement)

各国の有害事象発生率

調査を実施した国	対象病院／対象年度	発生率(%)
米国 ニューヨーク州	急性期病院(1984年)	3.8%
米国 ユタ州、コロラド州	急性期病院(1992年)	3.2%
オーストラリア	急性期病院(1992年)	16.6%
英国	急性期病院(1999年—00年)	11.7%
デンマーク	急性期病院(1998年)	9.0%
ニュージーランド	急性期病院(1998年)	12.9%
カナダ	急性期・地域病院(2001年)	7.5%

(WHO/World Alliance for Patient Safety “Forward Program 2005”)

日本	急性・亜急性期病院 (2002-03年)	6.8%
----	-------------------------	------

(厚労科学的研究班(主任研究者堺秀人)の調査による)

医療安全

Risk Management から Patient Safety へ

” 病院のリスク” から” 患者さんのリスク” へ
「非難」のサイクルから「改善」のサイクルへ

患者さんと医療者がともに安心して治療に
専念できるシステムと環境づくりを！

米国の共同行動



100,000 Lives Campaign (100Kキャンペーン)
医療安全の取り組みの普及が1年遅れるごとに
毎年10万人の命が失われている

3,100 病院が参加
(急性期病床の78% 以上)

医療安全全国共同行動

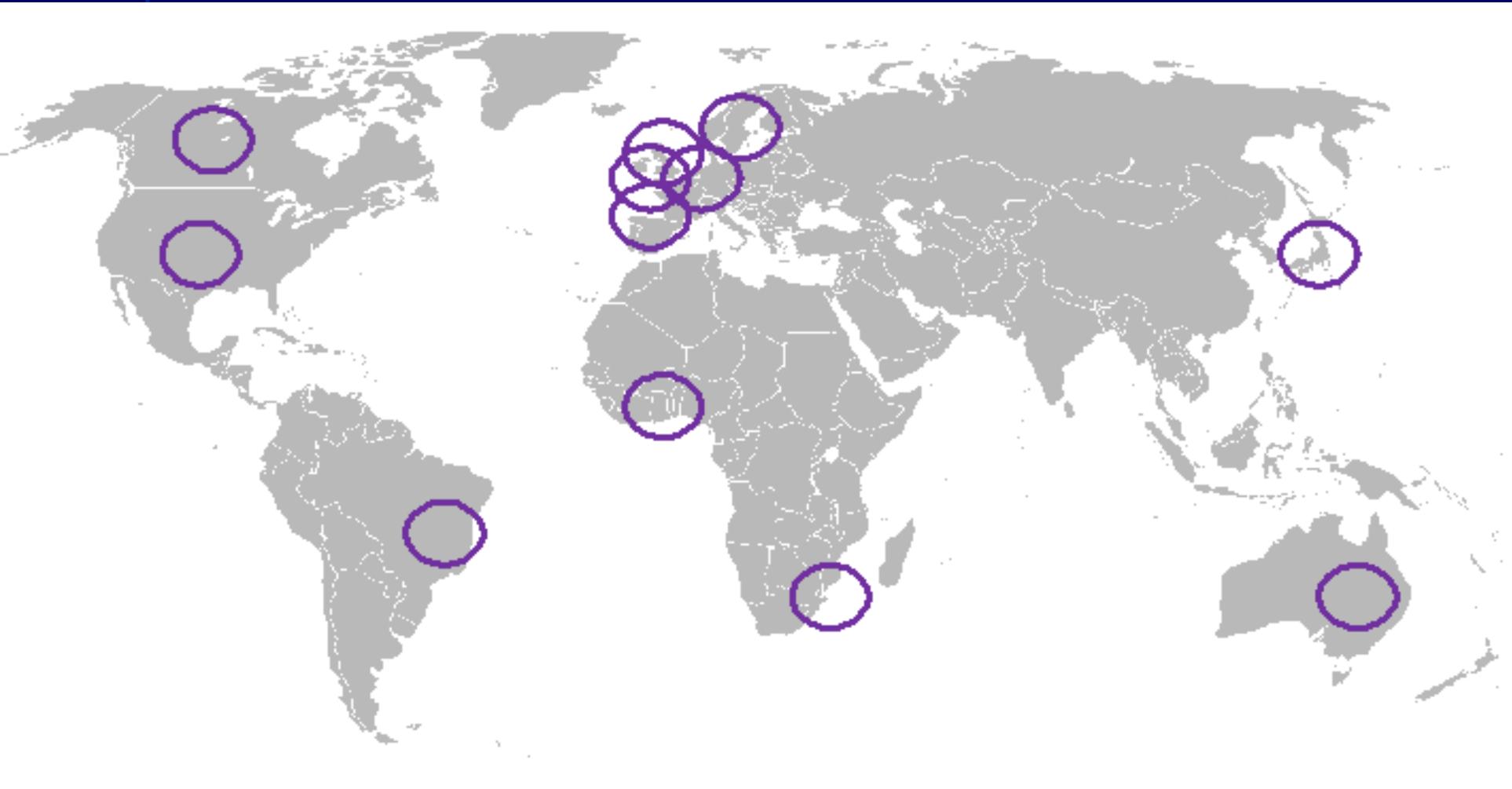
The 5 Million Lives Campaign

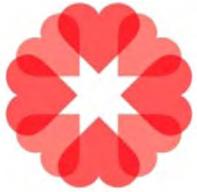
“500万人のいのちをまもろう”キャンペーン



毎年500万件にのぼる有害事象を減らす

世界に広がる医療安全共同行動





医療安全全国共同行動 (2008-10)

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

“いのちをまもるパートナーズ”

<http://kyodokodo.jp/>

呼びかけ団体

医療の質・安全学会
日本病院団体協議会
日本医師会
日本歯科医師会
日本看護協会
日本臨床工学技士会



目的

11

- **医療の質・安全の向上を目指す取組みの普及**
- **医療の質・安全向上の取り組み成果を可視化**
- **医療に対する患者・市民の信頼の向上**

病院の達成目標

12

1. 医療安全対策検討会議の提言を具体的に実現することを通じて入院中の可避死を低減する
2. 医療現場に安全の文化を浸透させ、医療の質・安全を確保し向上させる組織能力の基盤を作る
3. 職種や立場を超えた協力体制を構築する

今後の医療安全対策について

医療安全対策検討会議（平成17年6月8日）

13

- (1) 医療機関等における医療の質と安全に関する
管理体制の充実**
 - (2) 医療機関における院内感染対策の充実**
 - (3) 医薬品の安全確保**
 - (4) 医療機器の安全確保**
 - (5) 医療における情報技術(IT)の活用**
 - (6) 医療従事者の資質向上**
 - (7) 行政処分を受けた医療従事者に対する再教育**
-
- **医療事故等事例の原因究明・分析に基づく再発防止対策の徹底**
 - **患者、国民との情報共有と患者、国民の主体的参加の促進**

医療安全全国共同行動の8つの目標 (2008年5月—2010年5月)



14

- 1.危険薬の誤投与防止
- 2.周術期肺塞栓症の予防
- 3.危険手技の安全な実施
- 4.医療関連感染症の防止
- 5.医療機器の安全な操作と管理
- 6.急変時の迅速対応
- 7.事例要因分析から改善へ
- 8.患者・市民の医療参加

8つの行動目標



有害事象に関する目標

1. 危険薬の誤投与防止

2. 周術期肺塞栓症の防止

3. 危険手技の安全な実施

4. 医療関連感染症の防止

5. 医療機器の安全な操作と管理

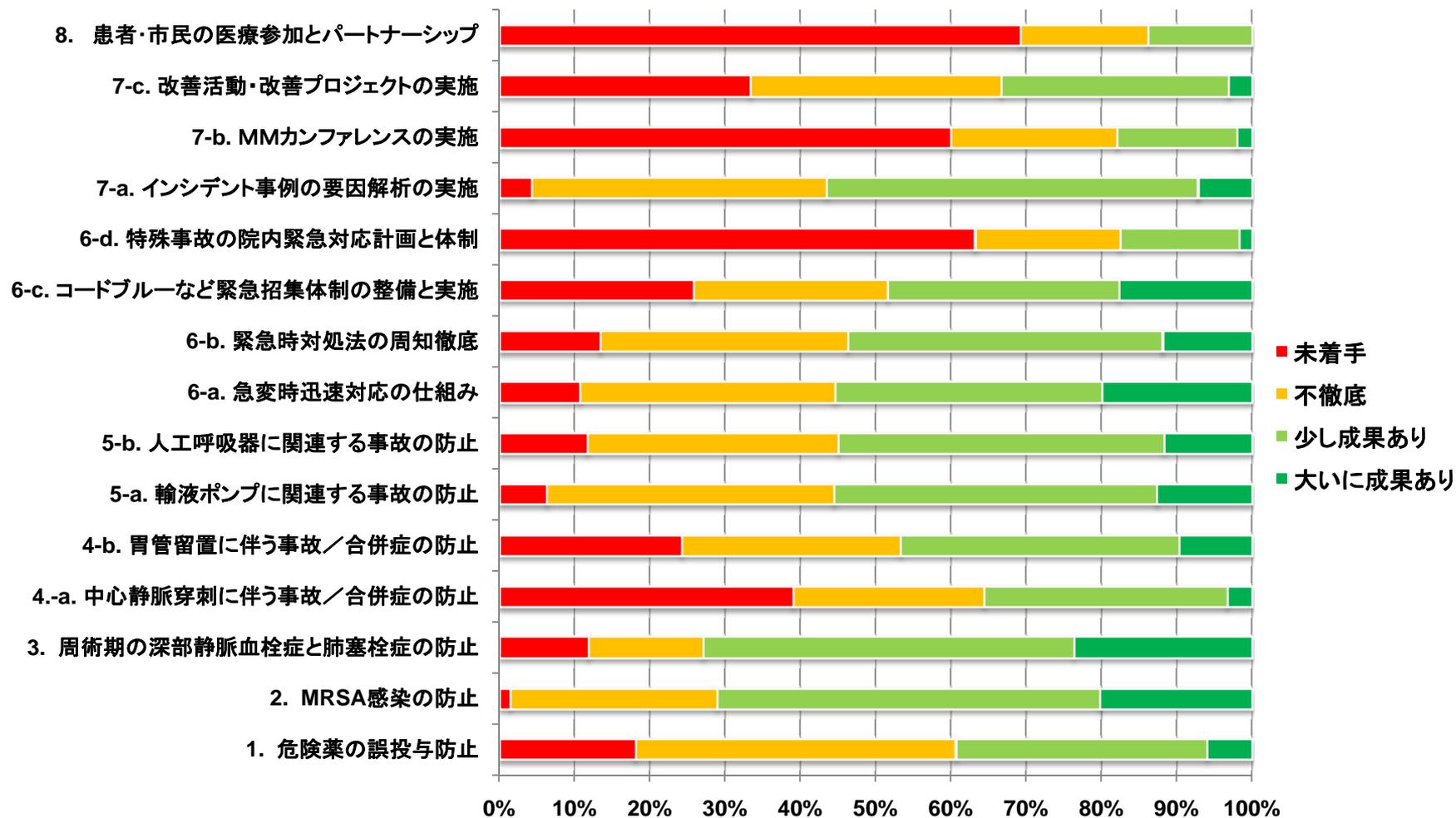
6. 急変時の迅速対応

7. 事例要因分析から改善へ

8. 患者・市民の医療参加

組織基盤強化
に関する目標

■ 以下の医療安全目標に関してあなたの病院はどの程度できていますか？



共同行動の主旨にご賛同いただける**病院**に共同行動への参加を呼びかけます。

- 共同行動の主旨と行動目標にご賛同いただける病院は、キャンペーン期間中に取り組む行動目標を8つの中から一つ以上選んでHPから登録し、その進捗と成果をHPからご報告ください。
- HPから提供するツールやさまざまな支援活動の機会を活用し、互いに学びあい教えあうことを通じて、これまでなかなか浸透・徹底できなかった懸案課題の実現や新しい展開にチャレンジしてください。
- すでに成功をおさめた課題について、HPや地域内の交流を通じて、地域や全国の病院に成功事例や成功体験に基づくアドバイスをご提供ください。

参加登録病院の登録方法と報告事項

8つの行動目標から一つ以上を選び、実施計画を策定する

随時

HPから参加登録を行う
ベースライン・データを登録する

行動目標の追加

目標実現のための活動

定期報告

進捗状況、入院死亡数・死亡率
を入力する

2010年5月

終了時自己評価データを入力する

任意

地域交流会や巡回キャンペーン
に参加

目標別研修に参加

疑問点や相談事項を報告

電話相談会に参加

目標別指標データを入力

成功体験や参考事例を報告

共同行動の主旨にご賛同いただける**病院団体、専門職能団体、関連学会・学術団体**に、共同行動への参加を呼びかけます。

- **病院の取組みへの支援； 技術支援チームへの協力、セミナーの開催、ツールの提供など、8つの行動目標の実現をめざす参加病院の取組みに対してそれぞれの立場や専門性から可能な支援を提供**
- **共同行動キャンペーンの推進； 会員の方々や関係する病院に医療安全全国共同行動への参加を呼びかけ、共同行動の拡大と効果的な連携に協力**

モニター病院として、取組み成果の「見える化」にご協力ください。

- 参加登録病院のうち達成指標の測定に協力いただく病院は「**モニター病院**」として登録します。
- モニター病院には、必須指標のほかに、目標ごとの達成指標およびリスク調整に必要な項目について報告していただきます。これにより、対策の成果や死亡低減効果を検証することができます。
- 病院ごとの個別データは守秘扱いとし、公表しません。

支援病院を募集します

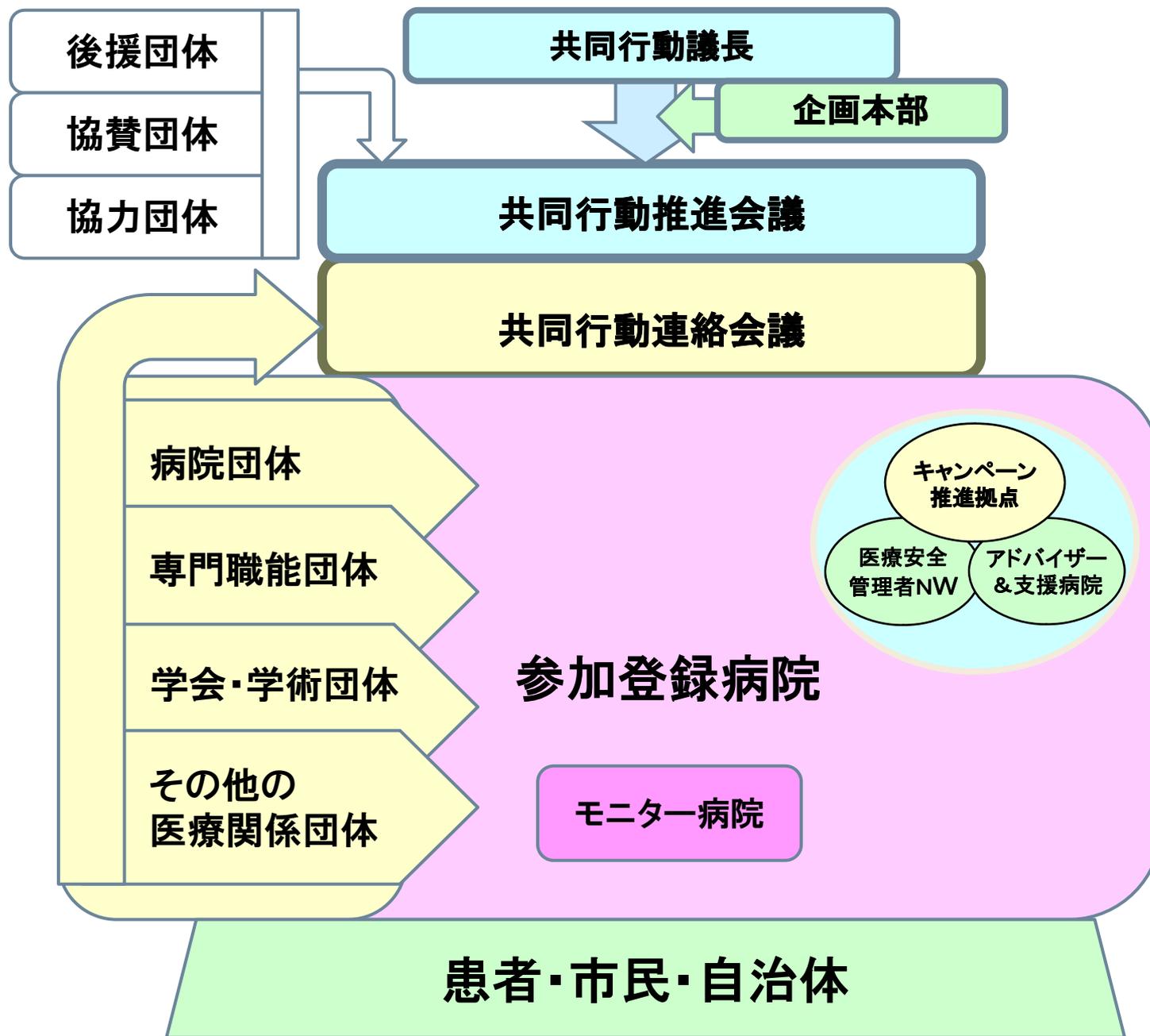
22

- 「支援チーム」は行動目標に関するエキスパートで構成し、企画本部にあって支援ツールの開発や参加病院の要請に応じた技術支援を提供します。
- 各地にあって目標ごとにセミナー講師や助言指導をしていただける個人やグループを「**地域アドバイザー**」と称し、地域アドバイザーを擁し組織として他の参加登録病院に助言や支援を提供いただく病院を「**支援病院**」と称します。
- 地域アドバイザーと、行動目標に関係する専門学会や団体の代表、及び経験豊かな専門家が「アドバイザー・パネル」を構成し、支援チームの活動に協力します。

キャンペーン推進拠点

23

- 「**キャンペーン推進拠点**」は、県または複数県にまたがる地域を単位として、域内の参加病院の交流会やセミナーの開催、広報など、当該地域におけるキャンペーン活動の推進・調整を担当いただける組織や機関を指し、企画本部と参加病院を繋ぐ結節点の役割を果たします。



キャンペーンの達成目標

25

- **参加登録病院** **3000病院以上**
- **有害事象件数の低減** **30万件以上**
- **入院死亡数の低減** **1万人以上**

公開フォーラム“いのちをまもるパートナーズ”

医療安全全国共同行動第1回全国フォーラム

医療安全推進週間公開シンポジウム「患者・市民の医療参加とパートナーシップ」

参加医療機関 > 3000病院
有害事象件数の低減 > 30万件
入院死亡数の低減 > 1万人

Yes, we can!



会長講演 庄長 上原 順夫 (東北大学大学院 医学系研究科 教授)
「医療安全・知の結集と実践の革新をめざして」
特別講演 庄長 川島 みどり (日本赤十字看護大学 看護学部 部長)
安全文化を考えるために「チンパンジーの親子と文化」
松沢 智郎 先生 (京都大学 露城眼科研究所 所長)

特別講演 庄長 上原 順夫 (東北大学大学院 医学系研究科 教授)
「米国 十万人の命を救え、キャンペーンが実現したこと」
フォーラム A (10:00-11:30) 庄長 川島 みどり (日本赤十字看護大学 看護学部 部長)
医療の質・安全学会 第4回学術集会
会場 東京国際フォーラム (東京都千代田区千代田 1-10-3) (10:00-11:30)
会長 武蔵野 裕夫 先生 (大阪大学 大学院医学系研究科 医療情報学講座 教授)

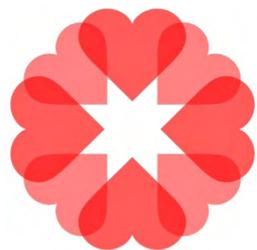


予約席

予

予約席

予



いのちをまもる

PARTNERS

医療安全全国共同行動